

116-0014 東京都

荒川区東日暮里 6-40-3

株式会社とりすえ

代表取締役 山口 勝憲 様

支援者番号： 0180146

チャイルド： 48-0711-01

成長記録のお届け

日頃よりスポンサーシップ・プログラムへご協力くださり、心から感謝申し上げます。

お手紙を通じて成長を見守っていただいているチャイルドの 2021 年度の成長の記録をお届けいたします。どうぞご一読ください。写真 2 枚目には「遊んでいる様子」、写真 3 枚目は「パンデミックの対応」として感染予防のパンフレットを持っている写真や支給品を持っている写真となっております。写真を見てどんな遊びなのだろう？と思われたりした方は是非チャイルドにお手紙で質問なさってください。

2021 年度も新型コロナウイルスの影響により、学校の日程やスポンサーシップ・プログラムの活動に大幅な制限を受けたため、お届けが遅れましたこととお詫びいたします。2022 年度もようやく 8 月に学校の新年度が開始されました。従ってチャイルドの進級、卒業も昨年同様 2023 年 7 月末になる見込みです。

「スポンサーシップ・プログラムのご報告」もあわせてお送りいたします。成長を見守っていただいておりますチャイルドが暮らす地域の状況や、現地の協力パートナーが実施した子どもたち・家族・地域への支援についてご報告しています。

子どもたちの成長を見守る私どものすべての支援活動は、皆さまからの温かいご寄付によって実施されております。今後ともご寄付の継続を賜りますよう、職員一同心よりお願い申し上げます。

皆さまが健やかに過ごされますようお祈り申し上げます。

* 成長記録や活動報告は活動地域ごとに到着し、順次お送りしております。複数支援いただく方には別々に届く場合もございます。

2023 年春

特定非営利活動法人

チャイルド・ファンド・ジャパン

E-メール：dsg@childfund.or.jp

事務局長

武田 勝彦

チャイルドの写真や情報を SNS など多くの方の目に触れる場に載せられる際は支援者サービスチームまでご一報ください。またその際は個人情報保護のためにニックネームまたはファーストネームのみ公開するなどの対応をお願いいたします。

子どものセーフガーディングについて

チャイルド・ファンド・ジャパンは、すべての活動において、子どもたちがあらゆる危害から守られるよう、「子どものセーフガーディング」を推進しています。ご理解とご協力をお願いします。
<https://www.childfund.or.jp/about/vision.html#csg>



スポンサーシップ・プログラムのご報告

皆様に見守っていただいているチャイルドは、皆様からのご寄付をもとに実施されている以下の事業によりサポートされています。



事業地(プログラム番号)	フィリピン共和国、東ミサミス州(1048)
現地パートナー団体:	Pedro Calungsod PEACE Center
事業期間:	2003年6月～(報告期間:2021年6月～2022年5月)
支援地域の状況:	東ミサミス州の州都、カガヤン・デ・オロ市は急激に発展が進んでいる地方都市です。人々が友好的であることから「黄金の友情の街」と呼ばれることもあります。チャイルドたちが暮らしているのは市の周辺の農村地域で、野菜、トウモロコシ、バナナ、カシューナッツなどが栽培されています。また、2011年12月に発生した大型台風21号が直撃した地域でもあります。洪水で家が流されるなど地域全体に甚大な被害があり、支援を受ける世帯が現在暮らしているのは、台風後につくられた再定住地域です。
事業の目的:	<p>この事業は、子どもの健やかな成長を目指し、子どもや保護者、学校、地域の行政や住民と共に、「教育」・「子どもの保護」・「防災」の分野から様々な活動を行っています。</p> <p>2021年度は昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、以下の活動に焦点を当てて事業が行われました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① コロナ禍での家庭学習の継続を支援する。 ② 子ども保護のための啓発活動。 ③ コロナ感染予防活動と減災への取り組み。

主な活動 ① コロナ禍での家庭学習の継続を支援する



新型コロナウイルス感染拡大防止のための休校措置は、2020年3月から2022年2月まで、2年もの間続きました。今年度も、毎週学校から出される宿題(モジュール)に自宅で取り組むチャイルドの学びを確実に継続させることが、プロジェクトの大きな課題となりました。長引く自習の体制で、モジュールを理解し回答することが難しくなるチャイルドも多くなっていったため、今年度はチャイルドたち自身への支援に加え、保護者がより積極的に、子どもたちの学習を支えることができるよう活動しました。オンラインで保護者同士が話し合える会を設け、また互いの意見や知識をインターネット上のメッセージで交換できる仕組みを整えるなど、家庭のサポート力の強化に取り組みました。くわえて、保護者とチャイルドを対象に、困難な状況の中でも自分を向上させることの重要性を伝え、学習意欲を高める自己開発の会も開催しました。

主な成果: チャイルドが困難のなか、学習を継続し、進級・卒業しました!

今年度は28名が高校を卒業、同じく28名が中学校を卒業、そのほかのチャイルドも無事進級できました。高校を卒業したチャイルドのうち11名が奨学金を得、また公立大学へ進学しました。そのうち2名は卒業生総代に選ばれた名誉を受けました。

主な活動 ②子ども保護のための啓発活動

プロジェクトはこれまでも自治体や学校の生徒会、若者の会と連携し、子どもの保護のための活動を展開してきました。今年度は小・中・高校の教員を対象とした、子どもの保護についての研修を実施しました。また、新しく登録されたチャイルドたちには、子どもの権利と責任についての研修をおこないました。

チャイルドたちと保護者リーダーのミーティングも定期的におこなっており、プロジェクトの取り組みへ理解を深め、子どもの保護に対する意識を共有、また一層高める機会となっています。



主な成果：子どもたちを危険から守るため地域の協力体制が強化されました。

啓発のための研修では、参加者の学びという成果以外に、主催した組織間の連携が強化されるというメリットが生まれました。子どもの保護の考え方を基調とした地域の協力体制が強化されています。また、チャイルドやその保護者がそれぞれの場所で子どもの保護への意識を保ち続けることが、地域全体の意識向上により影響を与えています。

主な活動 ③コロナ感染予防活動と減災への取り組み



台風ライの被害を受けた家屋の様子

今年度もコロナ禍への緊急対応として、食料品、ビタミン剤、マスクを含む衛生キットの支給をおこないました。また、政府の保健基準を守ることで、そして引き続きワクチン接種をチャイルドと家族に呼びかけることで、政府のコロナ対策を後押ししました。また、政府はコロナ禍対応として給付金、食料品の支給をおこなっており、これらのサービスに申し込みができるよう、チャイルドの家庭と福祉局をつなぐことにも取り組みました。

台風ライが2021年12月に地域を襲った際には、家屋の損壊被害にあったチャイルドの家庭に経済的な支援をおこないました。学用品の再配布も台風直後に実施し、チャイルドの学習に支障が出ないよう環境を整えました。地域は災害被害の多い土地であり、プロジェクトでは日頃から自治体のライフライン情報提供活動(車での巡回広報)と連携し、チャイルドや家族に必要な警戒情報が届くよう取り組みをおこなっています。

主な成果：コロナ禍・自然災害から子どもたちと家族を守ることができました。

プロジェクトのサポートにより、長引くコロナ禍で収入の減ったスポンサー・ファミリーが、政府による給付金、支援食料品の受給手続きをスムーズにおこなうことができました。また、自治体と連携した巡回広報では、災害被害が特に深刻かつ多発しやすいエリアのチャイルド家族に配慮した呼びかけが可能になり、適時に警戒情報を伝え、家庭の緊急事態への備えを促すことができました。

Salamat Po !
Thank you !

スポンサーの皆様、

この一年も子どもたちの成長を支え見守っていただきありがとうございます。